

通常の学級における

特別支援教育の観点を

取り入れた授業づくりⅡ

— 児童生徒の実態把握を大切にした授業づくり —



平成25年2月
岡山県総合教育センター

はじめに

平成21・22年度岡山県総合教育センター所員研究「小・中学校の通常の学級における特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりに関する研究－児童生徒を理解するためのアセスメントに焦点を当てて－」では、児童生徒の認知の特性を把握するためのアセスメントシートを考案するとともに、その実施結果の分析に基づいて、授業における配慮や手だてを提案しました。

しかし、その後の実践において、配慮や手だてを優先するあまり、児童生徒が思考したり、作業したりする機会を限定してしまい、教科の目標を十分に達成することができていない授業が見られることがありました。

通常の学級における授業では、教科等の目標に応じて授業が展開される必要があります。つまり、授業づくりを進める際には、教科等の目標を達成するために必要な配慮や手だてを考えることが大切です。

そのために、本ブックレットでは、「教材研究」と「実態把握」の両方の視点から授業づくりを進める過程を、国語科の実践事例を通して紹介したいと考えました。

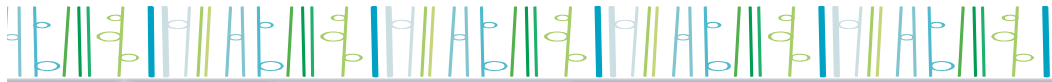
本来の国語科の授業づくりにおいては、言語活動の充実を目指した単元を構想することが求められています。具体的には、学習指導要領に基づいて「身に付けさせたい言語能力（指導事項）」を明確にして「それにふさわしい学習活動（言語活動）」を選定し、単元を貫く言語活動を位置付けた単元構想を行う必要があります。

ただし、今回は、実践した教師が日頃行っている授業に基づいて、特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりの考え方を生かした実践事例（小学校第6学年国語科「やまなし」）を紹介します。なお、本事例については、読者の読みやすさを考慮して、研究から得た知見を整理し、再構成した上で掲載しています。

- ・本ブックレットの内容を更に理解していただくために、併せて研究紀要も御覧ください。
- ・平成21・22年度の研究につきましては、岡山県総合教育センターWebページ「調査研究－研究成果物－H22」からダウンロードして御覧ください。
(<http://www.edu-ref.okayama.jp/chousa/study/index.htm#22>)

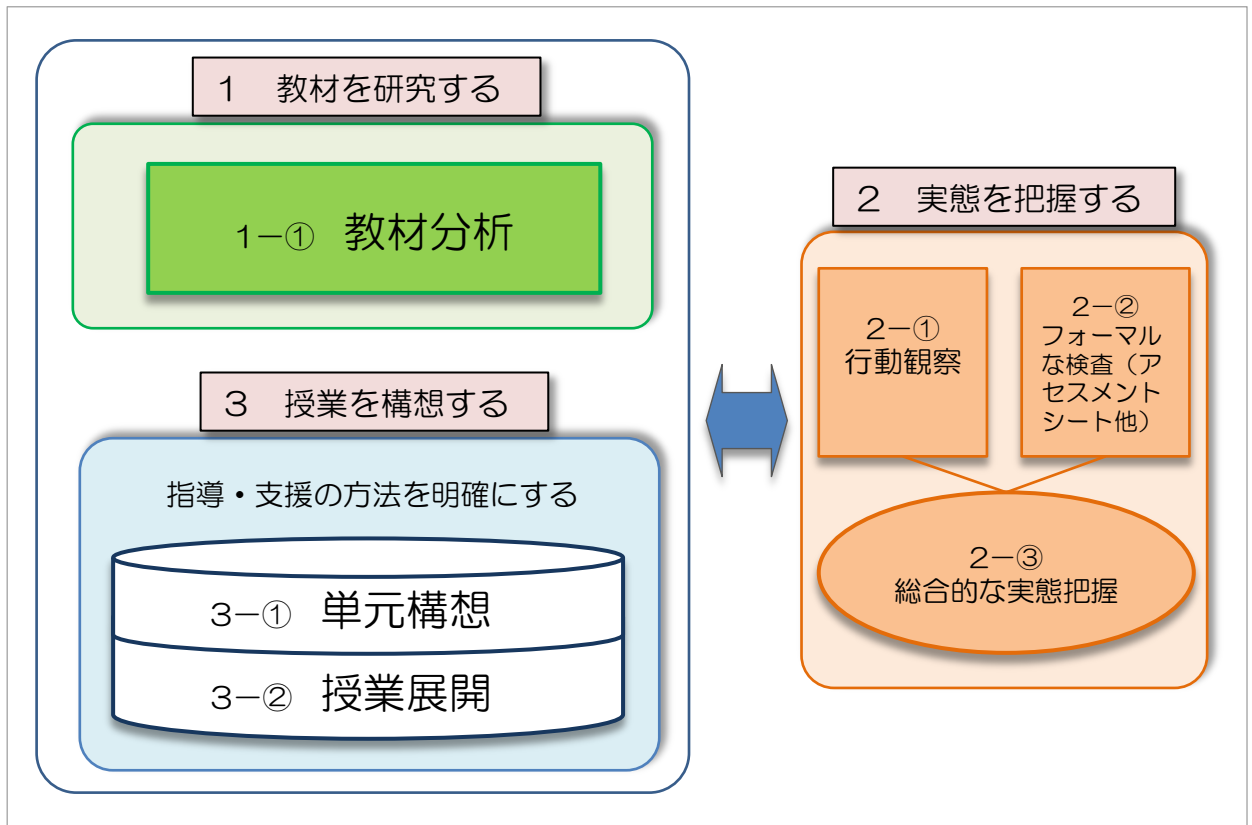
INDEX

はじめに	・・・p. 1
○ 実践事例（小学校第6学年国語科「やまなし」）	・・・p. 3
・ 授業づくりの考え方	・・・p. 3
1 教材を研究する	・・・p. 4
2 実態を把握する	・・・p. 5
3 授業を構想する	・・・p. 8
・ 授業展開の実践	・・・p.14
○ 支援の効果	・・・p.18
おわりに	・・・p.20



■ 授業づくりの考え方

特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりを進めるに当たって、A先生は下図のように授業づくりを捉え、単元を構想していきました。



- 図中にある番号は、実践事例で述べる項目に対応しています。
- 「**単元構想**」とは、単元全体のアウトラインで、大まかな流れや活動内容を計画・立案することです。
- 「**授業展開**」とは、1単位時間における学習目標（めあて）や学習活動、形態を想定し、具体的に指導・支援を導き出したり環境を設定したりすることです。

授業を構想するに当たって、A先生は教材を研究し、児童の実態を把握して、教材研究と実態把握を関連付けながら指導・支援の方法を明確にしようとしていますね。



1 教材を研究する

教材のもつ価値や表現・構成上の特色等、教材を分析することは授業づくりの第一歩です。教材を分析することで、指導上の工夫や必要な配慮が導き出しやすくなります。

1 - ①「やまなし」の教材分析

【教材のもつ価値】

本題材は、宮沢賢治の物語「やまなし」と資料「イーハトーブの夢」からなっている。中心教材である「やまなし」は、「五月」と「十二月」という大きく二つの場面から構成されている。「五月」は初夏に入り、明るく活発な季節であるが、幻灯の世界は魚やかわけみの存在がいかに不気味で、命を一瞬で奪う弱肉強食の世界が表されている。一方、「十二月」は草木は枯れ、動物も冬眠する季節だが、幻灯の世界では美しい月光や静寂、やまなしなどの存在により安らぎと恵みが表されている。どちらの世界においても、「かわせみ」や「やまなし」が侵入してくる瞬間を境に、かにかの様子に変容が見られる。児童は、その変容の様子や情景描写を読むことを通して、自然の厳しさや豊かさなどを対比的に感じ取ることができると考えられる。

【教材の表現・構成上の特色】

「やまなし」は、「二枚の幻灯」と表現されている「五月」の世界と「十二月」の世界から構成されており、それぞれの季節が1枚ずつの幻灯として描かれている。幻灯とは光源からの光によって像がスクリーンに映し出される影絵であると考えれば、「やまなし」の中でも、光源によって水面や水中などにある生き物などが映写幕である川底に影となって映し出されながら描かれているということになる。「五月」の光源は日光であり、昼間の明るい世界が動的に描かれている。一方、「十二月」の光源は月光であり、夜の暗い世界が穏やかに静的に描かれている。このような構造の中で、かにかの親子を通じた視点によって、水の中の様子が比喩表現や擬声語・擬態語など、独特の表現によって描写されている。

【作品から作者の生き方へと視点移すための工夫】

作者が、安らぎを感じる「十二月」を後半に配置してより重点を置いていることや、題名を「十二月」の場면을象徴する「やまなし」としていることなどから、作品の主題や構成を考えさせることができる。そして、そのことを通して、作者である宮沢賢治像に目を向けさせることができると考えられる。そこで、資料「イーハトーブの夢」を学習し、宮沢賢治の生き方や考え方をすることで、賢治がこの作品に込めたであろうメッセージを改めて感じることができると思われる。

【叙述をより深く味わわせるために】

「やまなし」は、比喩表現や擬声語・擬態語など、独特の表現によって描かれているために、初読では、難解な文章であるといえる。これまでに、このような文章に触れた児童は少ないと思われ、読み取りに際して抵抗感をもつ児童も多いと考えられる。そこで、意欲的に文章を読み取り、「やまなし」の豊かな叙述を味わうことができるように、児童の実態を考慮しながら単元構成や本時の授業展開等を工夫していくことが必要であると考えられる。

2 実態を把握する

実態を把握する方法は様々にありますが、ここでは行動観察とアセスメントシートによる実態把握を基に総合的に学級集団及び気になる児童の困難さを明確にします。

2-① A先生の行動観察による実態把握

- 本学級の児童25名は、元気で活発である。大きな声で発表したり、ゲームや暗唱したりすることを楽しむ児童が多い。
- これまでに児童は、文学的な文章を主に登場人物の心情の変化を中心に読み取ってきた。情景描写や色から登場人物の心情を読み取ったり、全体やグループで話し合っていく中で、友達の発言から自分との違いに気付いたり、新たな発見をしたりする楽しさを味わうことができている。
- 長い文章を読み取ったり、課題について自分の考えをもったりすることが難しい児童がいる。話し合いにも参加しづらくなっている。
- 全体に指示を出すと理解しづらい児童がいる。また、注意を持続し、指示を守って行動することが困難な児童が数名いる。
- ●児や▲児は、学習に集中して取り組むことができる時間が短く、分からないことが続くと授業に参加することが難しい。本单元でも、授業参加が困難であることが予想される。

2-② アセスメントシートによる実態把握

アセスメントシートの結果

測定する力	標準得点40点以下(人)		標準得点60点以上(人)	
①語を視覚的なまとまりとして素早く認識する力	●▲	2	○○○○○○○	7
②文章を見て書き写す力	●▲○○	4	○○○○○○○	6
③見た内容を少しの間記憶しておく力	○▲○○○	5	○○○	3
④聞いた内容を記憶して、必要な情報を取り出す力	●○	2		
⑤（絵に描かれた）場の状況を理解する力	▲	1		
⑥図形を見て、その構成を理解し、描き写す力	●	1		
⑦注意を持続し、必要とされる情報を選択する力	●○○○	4	○○○○○○○	6
⑧聞いた内容を少しの間記憶しておく力	●▲○○○○○○○	8	○○○○	4

※④⑤⑥は、満点を取っても標準得点が60以上にならないために表示していません。

アセスメントシートの結果を見て推測されること

【学級集団の困難さとして推測されること】

新しく出会う言葉や意味が分かりづらい抽象的な表現は、聞いても印象に残らず、記憶しづらい児童が多いと考えられる。一方、意味のはっきりしたストーリーのある音声情報を記憶しておく力が弱い児童は比較的少ない。つまり、音声情報である教師の指示や説明などは分かりやすく具体的に提示することで、児童の記憶に残りやすいと推測される。

【気になる児童の困難さとして推測されること】

●児

国語の学習活動においては、教科書を音読したり、黙読したりすることやノートに視写すること、また、教師や友達の話を聞き取ることの困難さが予測される。図形認知の弱さから、字形を整えて字を書くことも苦手であると考えられる。さらに、注意を持続させながら、教科書の文章を読み取ることも困難であると思われる。

▲児

国語科の学習活動においては、ワークシートや教科書の中に多くの情報があると、どこに注目したらよいのか分からなくなることが予測される。また、文字などを見て少しの間覚えておく力に弱さがあるために、視写の際には、目の移動が頻繁にあることも予想される。さらに教科書を音読したり、黙読したりすることや教師や友達の話を聞いて記憶することの困難さも予測される。

2-③ 総合的な実態把握

【学級集団】

<得意である点>

活動的で発表の得意な児童や、文学的な文章の情景描写や心情を読み取ることが楽しむことができる児童が多い。また、学級全体やグループで話し合うことを好む児童や音読したり黙読したりすることが得意な児童が多い。

<困難さのある点>

意味の分かりづらい抽象的な表現は、聞いても印象に残らず、記憶することが困難な傾向があると考えられる。また、長い文章を読み取ったり、課題について自分の考えをもったりすることが難しい。

行動観察とアセスメントシートの結果の分析から、学級集団と気になる児童について総合的に把握していますね。



【気になる児童の困難さ】

●児, ▲児

- ・学習に集中して取り組むことができる時間が短い。
- ・分からないことが続くと授業に参加することが難しい。
- ・音読したり黙読したりすることが難しい。
- ・文字を書いたり、書き写したりすることが難しい。
- ・教師や友達の話を聞いて記憶することが難しい。

▲児

- ・文字などを見て少しの間覚えておく力に弱さがある。
- ・ワークシート等に多くの情報があると、どこに注目してよいのか分からない。

教材研究と実態把握の関連付け

教材研究

1-① 教材分析

比喩表現や擬声語擬態語など、独特の表現によって描かれている。

「五月」の世界と「十二月」の世界という対比で描かれている。

「五月」と「十二月」ともに前半と後半で区切ることが可能である。

情景描写が豊かに描かれている。

語り手の視点が様々な位置に移動しながら情景が描かれている。

「やまなし」の主題と資料「イーハトーブの夢」が関連付けられている。

授業構想

3-① 単元構想

3-② 授業展開

実態把握

2-③ 総合的な実態把握

【学級集団】

<得意である点>

活動的で発表の得意な児童や音読することが好きな児童が多い。

文学的な文章の情景描写や心情を読み取ることが楽しむことができる児童が多い。

学級全体やグループで話し合うことを好む児童が多い。

<困難さのある点>

長い文章を読み取ったり、課題について自分の考えをもったりすることが苦手な児童がいる。

意味の分かりづらい抽象的な表現は、聞いても印象に残らず、記憶することが困難な傾向。

【気になる児童の困難さ】

学習に集中して取り組める時間が短い。
(●児, ▲児)

分からないことが続くと授業に参加することが難しい。(●児, ▲児)

音読・黙読することが難しい。(●児, ▲児)

文字を書いたり、書き写したりすることが難しい。(●児, ▲児)

教師や友達の話を聞いて記憶することが難しい。(●児, ▲児)

文字などを見て少しの間覚えておく力に弱さがある。(▲児)

ワークシート等に多くの情報があると、どこに注目してよいのか分からなくなる。(▲児)

3 授業を構想する

3-① 単元を構想する

前項のように「やまなし」の教材研究と総合的な実態把握を関連付けて考えると、単元を構想する上で、次の5点がポイントとして挙げられます。

ポイント

学習範囲の調整

○「五月」の場面と「十二月」の場面を、それぞれさらに前半と後半に区切り、読む範囲を限定して読み取りやすくする。

場面对比しやすくする工夫

- ただし、学習範囲を調整することで「五月」と「十二月」の全体像をイメージすることが難しくなり、対比しづらくなる。そこで、以下の工夫を行う。
- ・ワークシートの最初の部分に、前時の学習を振り返るコーナーを設けて既習内容と対比しやすくする。
 - ・1単位時間で1枚のワークシートを準備し、貼り合わせて冊子のようにすることで既習内容と対比しやすくする。

読み取りの手がかり

- 単元を通して以下の工夫を行い、読み取りの手がかりにさせる。
- ・読みの手がかりとなるキーワードとして、平和で穏やかな様子が感じられることを「いい感じ」、不気味で怖い様子が感じられることを「よくない感じ」と設定し、場面の様子をイメージしやすくする。
 - ・「いい感じ」を赤いハートで、「よくない感じ」を黒いハートで示すようにする。
 - ・文章だけでなく絵や図を活用してイメージをもちやすくする。
 - ・着目する言語を明確にすることで、より深く場面の様子を感じ取ることができるようにする。

繰り返して学ぶ安心感

○「五月」前半・後半、「十二月」前半・後半と学習パターンが繰り返されるようにする。国語が苦手な児童や注意を持続することが困難な児童にとって、安心して学習に取り組むことができるようにする。

学習環境（記憶を補う掲示物）

○教室の横に「学習の足跡」を掲示して、思い出すために支援が必要な児童にとっていつでも見ることができるようにし、学習場面对比しながら学習を進める手がかりになるようにする。

ポイントを押さえた単元構想

■ 単元名

作品の世界を深く味わおう
「やまなし」 「〈資料〉イーハトーブの夢」

■ 単元目標

- 物語の情景や言葉の使い方に興味をもったり、作者の考え方や生き方を理解したりしようとする。（国語への関心・意欲・態度）
- 「五月」と「十二月」で川底の様子、かにの行動、侵入してくるものの様子を対比し、作品の特徴や印象を感じ取ることができる。（読む能力）
- 複数の本や文章を比べて読んで、作者のものの見方や考え方について自分の考えをもつことができる。（読む能力）
- 比喻表現など複数の言葉が醸し出す響きを味わい、言葉に対する感覚を豊かにすることができる。（言語についての知識・理解・技能）

■ 単元の流れ（全11時間）

次	時	学 習 活 動	評 価 規 準
一	1	・自然のイメージと「やまなし」の世界との違いを感じながら、初発の感想を紹介し合う。	◇ 物語の情景や言葉の使い方に興味をもっている。 【国語への関心・意欲・態度】 （発言の内容、ワークシートの記述）
	2	・「やまなし」を読み、分かったことをイメージ図に表し、紹介する。	◇ 「五月」と「十二月」の川底の様子、かにの行動、侵入してくるものに気付き、作品の特徴を捉えている。 【読む能力】（行動の様子、発言の内容、イメージ図の絵）
	3	・読みの課題をつかむ。	◇ 「五月」と「十二月」を対比し、作品の特徴や印象を感じ取っている。 【読む能力】（発言の内容、ワークシートの記述）

特別支援教育の観点からの意味や背景

イメージ図に表す
→文章のみでは「やまなし」の世界を想像することが困難な児童にとって、図に表して共有させることは、作品のもつイメージと学習の見通しがもちやすくなると考えられます。

次	時	学 習 活 動	評 価 規 準
二	1 5 4 (展開例)	<ul style="list-style-type: none"> ・「五月」前半の世界を読み取る。 ・「五月」後半の世界を読み取る。 ・「十二月」前半の世界を読み取る。 ・「十二月」後半の世界を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 物語の情景や言葉の使い方に興味をもっている。 【国語への関心・意欲・態度】 (発言の内容, ワークシートの記述) ◇ 「五月」と「十二月」で川底の様子, かにの行動, 侵入してくるものの様子を対比し, 作品の特徴や印象を感じ取っている。 【読む能力】(発言の内容, ワークシートの記述) ◇ 比喩表現など複数の言葉が醸し出す響きを味わい, 言葉に対する感覚を豊かにしている。 【言語についての知識・理解・技能】(発言の内容, ワークシートの記述)
	5, 6	<ul style="list-style-type: none"> ・資料「イーハトーブの夢」を読み, 宮沢賢治の理想や生き方をまとめる。 ・「やまなし」の主題を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 作者の考え方や生き方を理解しようとしている。 【国語への関心・意欲・態度】 (発言の内容, ワークシートの記述) ◇ 作者のものの見方や考え方を捉えている。 【読む能力】(発言の内容, ワークシートの記述)
三	1, 2	<ul style="list-style-type: none"> ・宮沢賢治の他の作品を「やまなし」と比較して読む。 ・宮沢賢治について感想をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 複数の本や文章を比べて読んで, 作者のものの見方や考え方について自分の考えをもっている。 【読む能力】(行動の様子, 発言の内容, 感想文の記述)

特別支援教育
の観点からの
意味や背景



4場面 に区切っ
て読み取る
→長い文章を讀んで
意味を理解する
ことが苦手な児童
にとっては学びや
すい構想といえま
す。じっくりと言
葉に着目しながら
読むことが可能で
す。

4場面を同じ学
習過程で繰り返
して学習する
→学習の見通しが
もてず, 国語への
苦手意識の強い児
童にとっては, 安
心して取り組みや
すくなります。

着目する言語を
明確にする
→必要な情報に着
目することが苦手
な児童にとって,
手がかりとなる言
葉を明確にするこ
とは有効です。ま
た, 主題に迫るた
めに必要な手だ
てもあります。

3-② 授業展開を想定する

p.7のように「やまなし」の教材研究と総合的な実態把握を関連付けて考えると、授業を展開する上で、次の3点がポイントとして挙げられます。

ポイント

注意を持続する時間が短く、授業参加が困難な児童への対応

- ・前時の学習内容を振り返りやすくするために「学習の足跡」を活用し、本時の課題を捉えやすくする。
- ・予定ボードを使って学習の流れを提示し、学習の見通しをもたせる。
- ・学習形態を工夫し、学習活動にめりはりを付ける。
- ・板書内容とワークシートを一致させて注意・集中が持続しやすくする。
- ・参加が困難である児童を想定し、「イメージを描かせるために前に出て発表させる」「集中力がなくなった時には、前に出てかきの親子の動きを動作化させる」など具体的な手だてを考えておく。

自分の考えをもつことが苦手な児童への対応

- ・学習のめあてをシンプルにする。ここでは「十二月」後半の世界が「いい感じ」か「よくない感じ」かを二者択一で問い、自分の考えをもちやすくする。
- ・感じ方を表す言葉をカードにして、児童が必要に応じて使えるようにしておく。
- ・全員音読のときに、「感じ方」が共有できるように、「いい感じ」や「よくない感じ」のするところで挙手させ、黒板にハートマークの印を付けておき、一人読みの手がかりにさせる。
- ・文章のみから考えを深めるのではなく、絵を描くスペースを確保しておき、絵からもイメージを広げることができるようしておく。

グループで話し合い、高め合うための工夫

- ・人間関係に配慮して座席を配置したり、ペアで意見を交流させたりして、安心して自分の考えを表現できる機会を増やすようにする。
- ・時間配分を明確にし、タイマーを活用して時間を意識させる。また、司会などの役割や話す順番、ルール等を明確にしておくことで、集中が持続しない児童が参加しやすい状況を設定する。
- ・話すときには、媒介となるワークシート等をグループの中心に置いて、指差しながら説明させる。また、「確かめながら話す」「理由を話す」等の話し方のポイントと話型を掲示し、それに取り組みさせることで日頃から話すことへの抵抗感を減らす。
- ・友達の考えを聞くときには、「うなずく」「拍手をする」等の態度を大切にさせる。また「話している相手の方を見て聞く」等の学習のルールを明確にする。

ポイントを押さえた 授業の展開例

(第二次第4時)

目標

「かのにの行動」「川の様子」「やまなしの様子」を関係付けて、「十二月」後半の印象を感じ取ることができる。

学習活動	教師の支援と指導上の留意点	評価
1 前時の学習を想起する。 2 本時の課題をつかむ。	○前時の学習を想起させ、「十二月」前半の世界は静寂で穏やかな感じであったことを確認する。 ○本時も前時と同様に「どんな感じか」を考えていくことを知らせ、学習の流れに見通しをもたせる。	
めあて 「十二月」後半の世界はどんな感じが表現しよう		
3 自分の考えをもつ。 4 話し合う。 ・グループで感じたことを出し合う。 ・全体で話し合い、深め合う。 5 振り返る。	○一人の児童に音読させ、教師は提示している本文をなぞりながら「十二月」らしさを感じるところで自由に挙手させ、読みの手がかりをもたせる。 ○どんな感じが分かる描写を見付けさせ、自分のイメージをもたせ、それを絵や文で表現させる。 ○ワークシートの中に、絵を描くスペースを確保し、文章から読み取った内容を可視化させることで、感じ方のイメージをもたせる。 ○感じ取ったことをグループで出し合い、やまなしの流れていく様子やかのにの親子の様子、水の中の情景描写から、「十二月」の平和で幸せな様子を感じ取ることができるようにする。 ○グループの中心にワークシートを置いてから自分の考えを紹介することで、互いに聞こうとする雰囲気を作り、多様な考え方を出しやすくする。 ○友達の考えに付け足したり、比べたりした意見を称揚し、比べて読むことのよさに気付かせる。 ○グループで出し合った考えを、全体で話し合うことで、より深く「十二月」後半を感じ取らせる。 ○色彩描写や情景描写から読んだり、関連付けて読んだりした児童を紹介し、読み方を共有させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> (予想される児童の反応) 「ほかほか流れていくやまなしの後を追いました」 「よく熟している。いいにおいだろう」 「金剛石の粉をはいているようでした」 →きれいだな、暖かい感じがする。 </div> ○「五月」のかわせみと比べて読む視点を示し、「十二月」の世界をさらに深く感じ取らせるようにする。 ○まとめは自分の言葉で書かせ、達成感を味わわせるようにする。 ○観点を決めて振り返らせる。	「かのにの行動」「川の様子」「やまなしの様子」を関係付けて、「十二月」後半の印象を感じ取っている。 【読む能力】 (発言の内容、ワークシートの記述)

支援を必要とする児童への手だて

- 「楽しい」「明るい」「つらい」「暗い」など「どんな感じか」を表す言葉をカードにして用意し、必要に応じて参考にできるようにしておくことで、感じた印象をより詳しく表現できるようにする。
- 自分の考えをもつことができない児童には、机間指導の際、「かにかの様子を見てごらん」「『ああ、いいにおいだな』はいい感じかな、よくない感じかな。」と具体的に質問することで、考えを明確にできるようにする。
- 文章からの読み取りが難しい
 - 児や▲ 児等には、先にイメージを絵に表すように助言する。
- 意見を言ったり、説明したりすることが苦手な児童には、そのグループの友達に、ワークシートを見ながら、付け足したり、言葉をつないだりして進めるように助言する。
- 集中が続きにくい● 児や▲ 児には、一人学習やグループ学習の際、丸付けや声かけで自信をもたせたり、発表できる問題の時に指名したりすることで、話し合いに参加できるようにする。
- まとめることができない児童には、黒板にまとめたキーワードと教室側面に掲示している学習の足跡を比べるように助言し、できるだけ自分の言葉でまとめることができるように支援する。

特別支援教育の観点からの意味や背景



- めあてが「いい感じ」か「よくない感じ」か、とシンプルに設定されているので、児童にとって考えやすく、また、活動の見通しをもって、集中しやすくなります。
- 言葉カードを必要に応じて活用させたり、具体的な質問を行ったりしながら児童の学びの状態に応じて支援を行うことができます。また、一人読みの活動に入る前に、読みの手がかりをもたせることは、読み取ることが困難な児童にも、キーワードに着目させやすくなります。



- ワークシートに絵を描くスペースが確保されているので、文章からだけではなく、イメージを絵に表すことから学習に参加し、その後、文章の表現に着目させることができます。



- 学習形態が個人→ペア→グループ→全体→個人と、リズムよく展開されます。また、グループで話し合いが活性化するような具体的な手だてが想定されているので、話し合いに苦手意識のある児童だけでなく、他の児童にとっても、安心して取り組むことができます。
- 学習に参加する意識の低い児童が活躍できる場や活動を準備し、一人一人が達成感を得ることができるようにしています。



- 対比して読ませるための発問や、まとめるために必要な助言内容や支援方法を想定し時間を確保しています。「分かった」「できた」という実感をもたせ、次時からの学習の見通しをもたせることが期待できます。

授業展開の実践

p.12, 13の展開例を実践した様子です。学級全体と支援が必要な児童の様子についてまとめています。



学習活動と教師の支援	学級全体の様子	支援が必要な児童の様子
<p>1 前時の学習を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を教室側面に絵で掲示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・A先生が掲示物（絵）を使って振り返らせたので、内容が簡単に想起され、本時の課題をつかむ活動に円滑につながりました。 	 <p>学習の足跡</p>
<p>2 本時の課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めあてをシンプルに設定する。 ・学習場面のみを全文掲示し、ワークシートと一致させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童から「12月後半の様子を読み取りたい」という意見が出されるなどめあてを主体的につかんでいく様子が見られました。 ・板書とワークシートが一致しているので、めあてをつかんだあとも集中して次の活動に取り組むことができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習が想起でき、本時も同様に学習するという見通しもつことができていました。
<p>3 自分の考えをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「感じ方カード」を必要に応じて活用させる。 ・ワークシートに絵を描くスペースをとる。 	 <p>一人読みが始まる前に付けられたハート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範読する児童に合わせて「いい感じ」はパーで「よくない感じ」はグーで意思表示させ、A先生はその多少を見取って多い箇所に赤いハートを貼りました。 ・文章から読み取った後、絵を描きながら細かな部分に気が広がり、本文を読み返す児童がいました。絵を描くことで、気が広がり、更に読みが深まっている姿といえます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人読みのときに、●児や▲児のように、ハートを手がかりにしている児童が見られました。  <p>感じ方カード（一部）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現の仕方が不安になった児童が「感じ方カード」を自分で取り出して参考にしていました。 ・文章の読み取りが苦手ですぐにあきらめてしまう●児や▲児は、絵を描くことから学習を始め、文章にも目を向けながら自分の考えをもつことができていました。

学習活動と教師の支援	学級全体の様子	支援が必要な児童の様子
------------	---------	-------------

4 話し合う。

- ・グループで感じたことを出し合う。
- ・媒介となるワークシートを中心に置いて話し合う。

グループで話し合う様子

・全体で話し合い、深め合う。

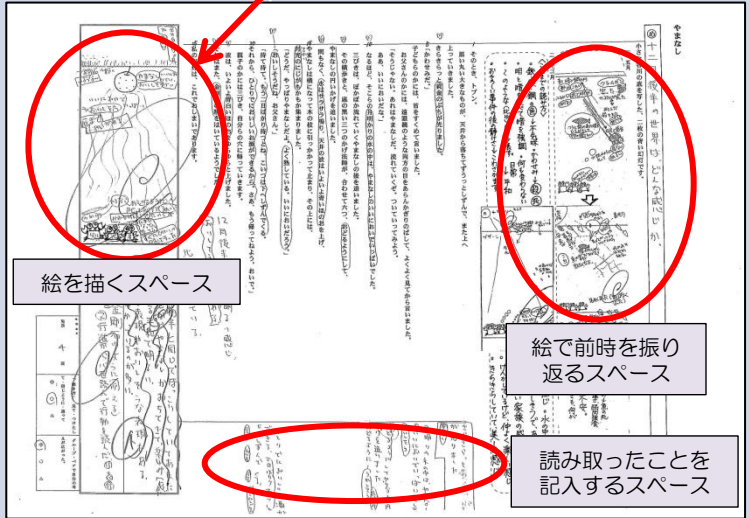


グループで話し合う様子

・B3用紙に印刷されたワークシートを中心に置いて、児童は指差したり、「つなぐ言葉」を使ったりしながら説明していました。聞く側の児童も受容的に聞きながら話し合いが行われていました。

・相互指名で関連のある発表を行い、たくさんの考えが発表されました。話題を深化させたいときには、A先生が意図的に指名を行ったので全体での読みが深まっていきました。

B3判に印刷されたワークシート



絵を描くスペース

絵で前時を振り返るスペース

読み取ったことを記入するスペース

B3判に印刷されたワークシート

・●児や▲児も、絵を指し示しながら自分のイメージを伝えることができ、周りの児童から認められる姿が見られました。

・●児が「金剛石の粉を・・・」という表現を演示しています。この他にも擬態語を動作化させるなど、国語に苦手意識のある児童の出番が確保されており、学習へ意欲付けができていました。

・▲児が「いいにおいでいっぱい」の表現を絵で描いている様子です。学級の友達から「もう少し長く描けばいいよ」とアドバイスをもらいながら楽しそうに取り組んでいました。



5 振り返る。

- ・一人でもとめ、全体で共有する。
- ・本時を振り返る。

・個人のもとめを全体で発表し、学級全体で成果を共有していました。また振り返る時間を確保し、本時の達成感を味わっていました。

・「十二月」のイメージと「五月」の違いを感じ取り、ワークシートに自分の言葉でもとめることができていました。

児童が指示どおり動かなかったり、教室がざわついていたりすると「どうして話を聞かないのだろうか」「自分の指示の出し方が悪いのだろうか」と漠然と疑問に思っていたので支援も曖昧になっていました。実態把握を大切にするという意識をもって実践する中で、表面的には見えづらい困難さへの気づきが広がり、子どもの見方が深まったように思います。

今回実践した「やまなし」は独特の表現も多く、読み取ることが難しい教材でしたが、教材研究と実態把握を関連付け、指導・支援の方法を明確にして取り組むことで、グループや全体での話し合いがとても活発になりました。支援の必要な児童も、いつも以上に意欲的に活動に取り組むことができていました。特に●児が、授業のまとめの中で「やまなしの学習は楽しい」と書いたことが印象に残っています。

また、最初は場面を区切ることで対比することが難しくなり、ねらいを達成できるか不安でした。しかし、実態に応じた工夫や配慮をすることで、国語に苦手意識のある児童を含めた、より多くの児童にとって学びやすい授業になったのではないかと感じています。宮沢賢治の本を借りてきて楽しそうに読む児童の姿を見て、実践してよかったと思います。

大切にしたいこと

○話し合う活動

学習形態を工夫し、グループで話し合う活動を取り入れていましたが、特別な支援が必要な児童にとって、社会性やコミュニケーション能力が必要とされる難易度の高い活動だといえます。

本実践のように「媒介となるものを中心において話す」「指差しながら話す」「つなぐ言葉を使いながら話す」「必ず一回は話す」「相手の方に体を向けて聞く」「うなずきながら聞く」「聞き終わったら拍手を送る」など、話し合いが活性化するための具体的な手だてを想定し、メンバーから出された意見によって学びの喜びを得るようにすることが大切です。

○授業を支える土台

A先生は、実態把握に基づいて「特別支援教育の観点表」(p.17)を作成し、毎日の授業の中に特別支援教育の観点を取り入れて授業づくりを行っています。この中には「学習のルールを明確にし、落ち着いた学習環境をつくる」「教師自身が日々の授業の振り返りを行い授業改善に生かすようにする」など授業を実践する上で大切な視点が多く含まれています。



また、この学級では異なる意見を認め合い、お互いに協力できる雰囲気大切にするために、グループエンカウンター等を取り入れることで、固定しがちなグループ間の交流を深め、全員が認め合える雰囲気づくりに努めていました。

授業づくりには、こうした「学習規律」「学習環境」「仲間づくり」「振り返り」等の授業を支える土台が必要であることに改めて気付かされます。



実態把握に基づいた特別支援教育の観点表



観点項目	具体的な内容
① 学習過程	<ul style="list-style-type: none"> ・「今カード」や色磁石を使って、授業の流れの中で今何が行われているのか、自分が何をすればよいのかが分かるようにする。 ・指導目標を達成するための課題を、段階を追って理解できるように、活動を細分化する。 ・時計とタイマーを使って、活動時間や終了時間を明確にし、考える時間を確保する。 
② 発問・指示	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくり、短い言葉で、具体的に話をする。 ・指示は教師の顔に注目させてから出すようにする。 ・指示や発問内容が見える形にする等、視覚的支援を心がける。 ・指示を出した後、理解したかどうか全体を確認して、次の指示を出す。 ・望ましい発言や行動に、称賛と肯定の言葉をかけ、何がよかったかを全員の前で伝える。
③ 学習形態	<ul style="list-style-type: none"> ・学習方法や内容に応じた形態（個人、ペア、グループ、全体）を取り入れる。
④ 教材研究 教材・教具	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート等を工夫し、話し合いに集中できるようにする。 ・ワークシートの大きさは、ノートに貼ることができるように調整する。 ・児童相互がつながるための教材・教具を積極的に使う。 ・実物投影機やデジタルコンテンツを活用し、視覚的な支援をする。
⑤ 板書	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてとまとめを赤で囲み、各時間の学習内容を明確にする。 ・板書や提示教材を、ノートやワークシートと連動させる。 ・板書の中でノートに書く箇所は、鉛筆の形をした「鉛筆くん」を貼る。 ・文字の大きさや配列を意識し、最後列からも見えやすい板書や掲示をする。 
⑥ 話型	<ul style="list-style-type: none"> ・発表は、「つなぐ言葉」を意識して発表させるように声をかける。 （例）確かめながら話す、理由を付け加えて話す、分かりやすく話す 等
⑦ 個への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の活動のスピードや、課題が違うことを理解させ、児童全員で支え合う雰囲気をつくる。 ・不適切な言動には、非言語対応（表情・身振り等）を併用して指導する。 ・全体での指示が理解しづらい児童は、活動の前に個別に指示を繰り返す。 ・課題の取りかかりに時間がかかる児童には、手元に手順カードを置き、すぐに確認できるようにしたり、取り組む活動を一緒に確認したりする。 ・よい発言や態度などをさりげなくすぐ称賛したり、全体で紹介したりする。 ・理解するまでの過程を認め、一人一人のよさが認められる場の設定を心がけ、授業へ参加することへのモチベーションを高めていくように努める。
⑧ 学習環境他	<ul style="list-style-type: none"> ・「相手を意識して発表する」「話している相手の方を見て聞く」などの学習のルールを明確にし、落ち着いた学習環境をつくる。 ・教室の側面や背面に「学習の足跡」コーナーを設け、学習したことを想起しやすくして、現在の学習と関連付けられるようにする。 ・集中力を高める位置や人間関係を配慮して、落ち着いた学習環境をつくる。 ・朝学習の時間にグループエンカウンター等などを行うことで、固定しがちなグループ間での交流を深め、全員が協力できる雰囲気をつくる。 ・教師自身が、日々の授業の振り返りを行い授業改善に生かすようにする。

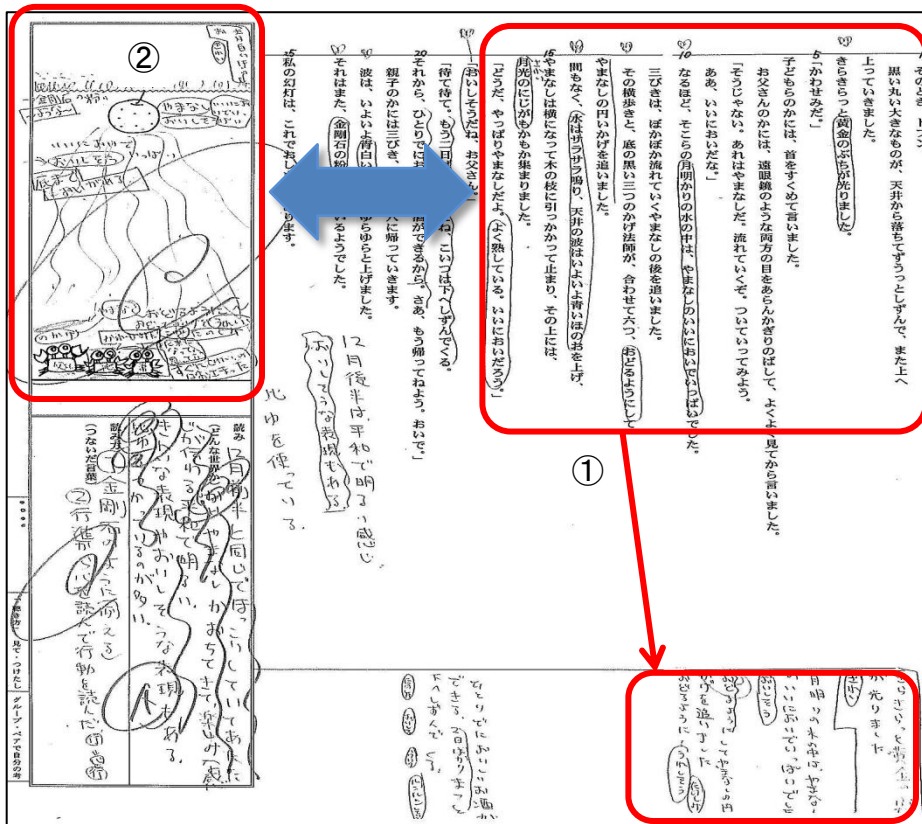
支援の効果

実践事例に見られた具体的な手だてを通して支援の効果について考えます。ここでは、特に、A先生が一人一人の学習に対する理解の仕方に対応した手だてを行った場面を取り上げ、その支援の効果について解説していきます。

下図は、12月後半らしさが感じられる部分を自分なりに表現させるためのワークシートです。「①文章を読んで、下欄のスペースに自由に記述する」という活動ですが、A先生は、それが困難な児童を想定し、「②イメージを絵に表すコーナー」を確保しました。

そして、「①②どちらでもよいから取り組んでみよう」と投げかけ、①が終わった児童には②を描くように勧めました。

すると、参加しづらいと予想されていた児童が②に取り組んだ後、①の活動を行う姿が見られました。また①から始めた多くの児童が②にも取り組む中で、再び①へと戻り、読みを深める姿が見られました。

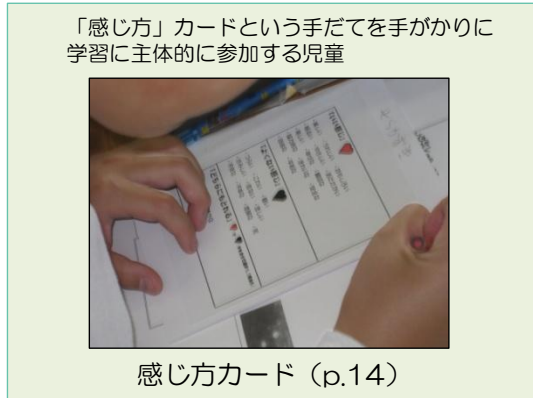


②の活動は国語科において従来からある手法ですが、これを全員に描かせるのではなく、選択して活用できるように設定したことは、文章を読み取って文で表すことが苦手で授業への参加意欲に乏しい児童にとっても参加しやすくなったと考えられます。②の活動だけで満足してしまうことは、国語科のねらいとしては十分とはいえませんが、本時の流れからすると、まず自分の考えをもち、表現できるかどうか（参加できるかどうか）が大切なポイントで、学習に参加しづらい児童が参加への手がかりを与えられたといえます。

こうした一人一人の学習に対する理解の仕方注目した活動は、特別支援教育の観点を取り入れた活動といえます。

また、適宜ペアで話し合う時間も設定したので、隣の児童が参加しづらい児童の絵を見て助言や称賛の言葉をかけていました。学習に参加して「できた」「分かった」という達成感を味わったり、友達から認められたりすることで自己肯定感が高められることは大切です。さらに、①の活動を終えた児童が、②でイメージを可視化することで、自分が気付いていなかったことを発見し、再び能動的に文章を読み深める姿が見られたことも注目に値します。

「絵を描くスペースを確保し、選択して活用できるようにする」という手だては、支援が必要な児童だけではなく、他の児童にも、さらに読みを深めるために有効な手だてとなっており、多様な学びを保障しているといえます。



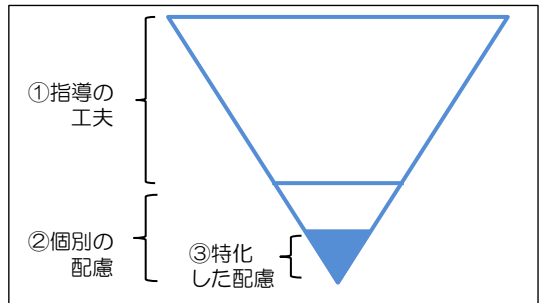
今後の授業づくりに向けて

支援が必要な児童に、個に応じた手だてや配慮を行うことは大切ですが、通常の学級においては、学級集団への指導・支援の在り方を考える必要があります。

特別支援教育総合研究所の廣瀬由美子上席総括研究員は「質の高い授業があって、その上で初めて発達障害の子どもたちへの特別支援教育が可能になる」と述べています。

また、筑波大学附属小学校の桂聖教諭は、通常の学級における授業づくりは、次のように行われるべきだと述べています（右図参照）。

- ①教科の授業を改善し、指導を工夫する
- ②工夫したとしても乗れない子へ配慮する
- ③授業時間内の個別指導だけでは難しい子に特化して配慮する



上述した活動のように、特別支援教育の観点を取り入れることは、学ぶことが困難な児童を含めた、より多くの児童にも学びやすい授業になるといえます。

また、通常の学級における授業づくりは、まず、教科の目標や育てる力を明確にし、それに応じた授業が展開されることが大切です。必要だと思われる配慮や手だてであっても、例えば「目標を達成するために必要である」等のように、その支援が必要な根拠をもつことが大切です。そのためには、児童の得意な点や困難さを把握した上で、それに応じた支援を行うことが大切です。

おわりに

「一人一人の児童生徒が『分かった』『できた』と実感できる授業にしたい」と多くの教師が願っています。その一方で、「困難さのある児童生徒をどのように理解し、支援していいのかわ信がもてない」という声も聞かれます。

授業づくりのアプローチは様々ですが、教師が児童生徒をより深く理解し、自らの指導方法を振り返りながら配慮や手だてに生かしていくことは大切です。

ここでは、授業を実際に展開する時間だけではなく、単元を構想する段階から、教材研究と実態把握の両面に焦点を当てて、実態に応じた指導や支援について考えてきました。

しかし、更に質の高い授業を行うためには、教科の指導を工夫する中で、学級や個人の実態を把握しながら、適切な指導と必要な支援を導き出していく必要があります。また、小学校の実践を中学校にも生かして取り組む必要があると考えています。

このブックレットが授業改善の一助となれば幸いです。



★アセスメントシートを活用されたい場合は下記に御連絡ください。

岡山県総合教育センター 特別支援教育部
TEL(0866)56-9106 FAX(0866)56-9126

※このブックレットをWebページでダウンロードし製本する場合は、見開きで御覧いただきたいページがありますので、両面印刷の後、製本されることをお勧めします。

参考文献

- 岡山県総合教育センター（2011）『通常の学級における特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりーアセスメントシートを活用した授業づくりー』
 - 全日本特別支援教育研究連盟（2011）『特別支援教育研究12月号No.652特集（通常学級の授業ユニバーサルデザイン）』東洋館出版社
 - ネットワーク編集委員会（2012）『特別支援教育の発想でどの子ども学びやすい授業を創る！』学事出版
 - 授業のユニバーサルデザイン研究会（2012）『授業のユニバーサルデザインVol.5』東洋館出版社
- * イラスト：玉野市立宇野小学校教諭 清岡憲二

平成23・24年度岡山県総合教育センター所員研究
「通常の学級における特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりⅡ
ー児童生徒の実態把握を大切にした授業づくりー」
研究委員会

指導助言者

柳原 正文 岡山大学大学院教育学研究科教授

協力委員

岡山県内公立小・中学校教員 5名

協力校

岡山県内公立小・中学校 3校

研究委員

高橋 章二 岡山県総合教育センター特別支援教育部長

北川 和美 岡山県総合教育センター特別支援教育部指導主事

村上 直也 岡山県総合教育センター特別支援教育部指導主事

定久 照美 岡山県総合教育センター特別支援教育部指導主事

平成25年2月発行
通常の学級における特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりⅡ
ー児童生徒の実態把握を大切にした授業づくりー

編集兼発行所 岡山県総合教育センター
〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川7545-11
TEL (0866) 56-9101 FAX (0866) 56-9121
URL <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/>
E-MAIL kyouikuse@pref.okayama.lg.jp

お問い合わせ 特別支援教育部 TEL (0866) 56-9106

Copyright © 2013 Okayama Prefectural Education Center